

人生を拓く

59

長縄 恵光さん (85)

都 さん (82)

|| 6 西区 ||

愛知県春日井郡(現春日井市)から入植した3代目。父辰次さん(昭和53年、72歳没)、母せいさん(同12年、20代前半同)の3人兄弟の末っ子として東川で生まれました。兄2人は3、4歳のころに相次いで早逝したため、大切に育てられました。

1939(昭和14)年、父が日本製鋼所輪西製鐵所(現新日鐵住金室蘭製鐵所)に勤めたため、一家は室蘭へ。しかし5年後、第二次世界大戦(太平洋戦争)の激化で疎開のため11歳で帰郷。6年生の1年間だけ東川村尋常小学校に通いました。

戦後の1946(昭和21)年、一家は、横須賀から引き揚げた従兄弟家族とともに小さな2軒長屋に暮らし、体が弱かった父に代わって恵光さんが担い手に。中学校卒業後、進学をあきらめつつも、2年間通信教育で高校教育を学びました。「食うや食わずの生活で一番苦しかった」と。

2人の出会いは、友人だった都さんの兄、大西斌(さかし)さん(72)を通じて。当時、17歳で入団した青年団では弁論大会、芝居の稽古や出演など活動に積極的で、農業の傍ら大学の通信教育講座も受講する勉強家でした。

3歳年下の都さんは、青年



団活動を通じてそんな恵光さんについてしか魅かれ、1年間の交際を経て結婚。家庭は3人の息子、そして5人の孫に恵まれました。

そのころ、第二消防団でも積極的活動をしていました。氾濫を繰り返していた忠別川の築堤作業も当時の大切な任務でした。消防団活動を通じ、1958(昭和33)年に団員の仲間と「むつみ会」をつくらんと、多い時には12戸24人が集まって毎月1回談話会、毎年1回積み立て旅行をする友の会に。今も旧友6戸9人の友が集まります。

約4畝でセロリ、みつ葉、カボチャ、ナス、水稻の苗づくりなど、そ菜の多品種生産を行い、4軒でグループ生産・出荷を始めて成功し、東川そ菜団地生産のお手本に。先見性のある経営手腕が認められ、1969(昭和44)年、36歳で東川町農協理事に。翌年から始まった国の減反政策(第1期減反)では、

非常勤理事として対応に当たりました。1988(同63)年から常勤専務として3期9年間農協運営の一翼を担い、64歳で勇退。東川農業の戦後激動期を駆け抜け、今は穏やかに広がる農地を見守っています。

俳句

待ちわびて待ちわびた春赤いくつ	高瀬潤
誰からか合図なくとも「春が来た」	三島智
優しさはつよさに在る名木の根開く	若田郁
ありがとうふる里を去る春の雪	佐々木りえ
お喋りが止まらない孫山笑う	本田咲
もしかして平成最後?猫の恋	斎藤夕桜
凍ゆるみ雪にダイヤモンドはめ	山内みゆ
恐竜が屋根から落ちて春隣	八田昌代
紙の雛あふれる部屋に姉ひとり	小林ろば
葉に花に雪のふちどり寒椿	石澤清宏
室咲や清楚競いし鉢二つ	杉山ひろのり
カサツコソツガサツ春の音聴く散歩道	保科なほ
雪解川我が白髪の日日かな	杉山りつ
春一番わたし未だ未だ反抗期	こばやし 星来

